

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

## テーマ『自治会をどう活性化するか』

～南府中自治会のケースから～

講師：宮本倫好

南府中自治会・相談役(前会長)  
文教大学名誉教授（国際政治学）

2010.7.15 昭島市市民交流センター



本日のテーマ「自治会をどう活性化するか」は非常に大きな、なかなか普遍化しにくいテーマですが、今後の活動の何がしかのヒントをおくみ取りいただければ有難いと思います。

### ■ 当自治会の成立と現状

南府中自治会(府中市)は40年ほど経過し、約400所帯の自治会です。一戸建てを中心とした西武建設(西武鉄道系)の分譲地です。

はじめての共通の争点が、地域の水道設備を市に移管する際、市の配水管につなぐ費用を、各戸負担せよ、という市の要求でした。これが住民に結束の機会を与え、反対陳情することになったんです。交渉もスムーズにいき、メディアの応援もあって、市の負担で決着がつきました。

それから、私たちの地域は競艇場がすぐそばにあり、諸問題を抱えていましたので、次は競艇場対策をやろうじゃないかと、みんなが団結しまし

た。このように、何か地域にある問題点や、争点を掘り起こせば、まとまりやすいと思います。

一方、コストの方が大きいと誰も自治会には入りません。コストと受け取る利便はどっちが大きいか。圧倒的に利便が大きくないと、住民は自治会活動にはなかなか関心を持ってくれない。だから、自治会に入ったらこんな得があると具体的に納得して貰わないと、会員維持は不可能で、自治会は活性化しません。それをどうするか。これはどこの自治会にも通じる問題です。私どもは転入者には具体的に「負担、義務はこれこれ。結果これだけ得」という項目を挙げたりリストを配布し、入会を勧めます。

次に分譲会社に自治会館を造って頂きました。これはテニスコート付きでした。テニスコートを持っている日本で唯一の自治会です。役員はどうしても高齢者になるけれども、テニスは若い人がやりますから、これでできた人間関係が、そのまま自治会活動に結び付いた面もあります。

それから会館が非常に大きな役割を果たしました。今、サークルが二十数組あり、会館は取り合いです。会館をどう活用するか、会館の利用状況が自治会活動のキーであり、役員の責任でもあると思います。利用度を高め、会館をうまく活用することで自治会に引き付けることができます。

加入率はほぼ100%を維持していますが、会館の活用内容、回覧の内容、冠婚葬祭の協力等は重要な要素です。負担は年会費が1,200円。こんなに安く済む理由は、市の補助、競艇場の協力金があるからです。会館使用料は受益者が実費負担。持ち回りの地域役員は10~15年に1回程度、当番が回ってきます。

100%近い加入率になると、いつも問題を起こすような、やめてほしい人もやめてくれない。逆に考えると、それだけ自治会の目に見えない魅力というか拘束力が、うまく機能しているんだなと思います。

### ■役員定年制の実施

さて次は、自治会で役員をどうするかという問

題ですね。これは皆さんも共通の一番のお悩みだろうと思います。どんなにいい会長で穏やかな人であろうが、任期制がないとだめだ、と私どもは信じています。各自治会で事情は違いますが、私は「余人を持って代えがたい」ということはあり得ない、と思います。それは本人がそう信じているか、会員が「まあやりたい人にやってもらえ」と安易に考えているに過ぎない、と思います。

私どもは、委員会をつくって、細かく規定を作りました。それで三役の会長、筆頭副会長、筆頭会計幹事3名は選挙。あと会長が副会長2名と、会計幹事1名を指名します。そして任期は2年、ただし1回留任可、同じポストでそれ以上はダメ、ということにしました。

また、次の人のどうするかというのは執行部の責任であり、次に引き継ぐべき人を考えながら、いつ辞めてもいい状況を絶えずつくっておくことは非常に大事だと思います。だから、自分でないとこの自治会はやれないとは考えず、後を誰に託すかをいつも念頭に置き、後継者を育成するという気持ちが大切だと思います。

しかし、会長が勝手に後継者を指名したり、放り出したりしては無責任です。そこで前回の例では、私どもは広く人材を入れた推薦委員会をつくりました。後任会長は誰がいいだろう。いろいろな話が出ました。そこで委員会としては候補を絞り込んで、なりたい人よりなって頂きたい人を推薦しましたが、会員にはあくまでこれは委員会案であり、他に誰に入れようと自由としました。これがうまくいって、私たちの推薦と住民の意向が合致し、三役の選挙は非常にスムーズにいっています。

## ■自治会活動のポイント

次に、自治会活動のポイントについてですが、1つ目は、お年寄りばかりが全部牛耳っていると、これもまた難しいんです。若い世代に何かかまないと、自治会が結局高齢者の集まりになって、下から見たら何だと、じいさん、ばあさんが集まって勝手なことを決めてると。これじゃ困るので、私たちは若い世代を部分的にでも、いかに巻き込むかということに、問題意識を常にもって

活動をしています。はめ方によって若い人は結構協力します。自分の子供が子ども会に入って、奥さんが会館での趣味の活動をやっているとかで、やっぱり自治会活動をしないと、自分の家族が今後やっぱり困るなと思ってくれれば、しめたものです。

若いお父さんと自治会活動について話し合いをする努力が大事です。会話の中から、忙しいからあんまり大きな役はできないけど、少しぐらいはやるかという人が必ず出る。そして、いろいろなところに入ってくれる。そうすると、いつの間にか自治会全体を見渡せるようになります。若い世代への目配りは大事です。

2つ目のポイントは、月に1度の定例役員会です。400所帯を9地区に分けて、2人ずつの地区役員(当番制)出席で定例会が開催されます。地区役員は女性が多いですね。最初は嫌だと思って1年やってみたら、やっぱり自治会は必要だね、と分かる。こういうふうに役員経験者を味方にしていくことが大事です。そうすると何回転かするうちに、皆、自治会活動の理解者になっていきます。活動の際、なるべく負担は少なくすることを絶えず三役は配慮しないといけないと思います。

女性はやりだしたらすばらしい人が多くいます。次は会合で発言してもらいます。1つ発言したら、いい意見だとそれを褒めます。そうしたら自信を持ちますね。その後いろいろ発言していくだけになることがあります。

その中で、会議が非常に活発になってきました。それを我々選ばれた執行部がうんと地区委員の話を聞き、いいところはどんどん取り上げていく。そうすると自治会に私の意見が反映された、と悪い気がしなくなり、嫌々やった当番が面白くなってくる。そんな配慮をしながら、定例委員会、地区役員会を行ってきました。

私たちの自治会は経理の徹底的な透明化に着手しました。会長といえども1円の金も自由にできない、そういうシステムにしています。すべて公明正大、全部オープンということで、予算にないものを使うような時は、役員会をちゃんと通す。

そして、監査役に非常にうるさい人を選びまし

た。会員に対しては総会のときだけですが、役員には 3 カ月に 1 回、支出明細のレポートを出します。そして、全部コンピューター化してくれました。金の出し入れは、入力すれば一目瞭然、コンピューター上に明示され、1 年交代の会計担当地区役員の仕事が非常に楽になりました。

私どもも過去には、書記と会計の負担が重過ぎました。役員会の記録から何もかも全部書記にやらせる。だから嫌がられた。私たちはそれを一切やめようと、執行部で取り組んでいます。自治会は会長、副会長が働くんだだめだということですね。

役員会の前に、会議の式次第を作つて、e メールで全部流します。これに追加したいこと、こういうことをやりたい、こういう意見を述べたい等あれば、会長に 3 日前に言っていくことになっています。それで追加変更があれば再度 e メールにて役員に流すので、事前にみんな会議の内容を知っています。その上で臨みますから、こういうことを言おうという心構えで来ます。

今、若い人はメールが出来ますが、高齢の方ではコンピューターなんかに触るのも怖いという方が現実にはいらっしゃる。e メールが出来ない人には、プリントして配布してきましたが、今では役員全員 e メールが大丈夫になりましたので、自治会運営が非常に楽になりました。

それから、会は合理的になるべく時間を取らないことが大事です。早いときは 30 分で終わります。事前に会議の内容が分かっているから進行が非常に早い。議論になって 1 時間や、1 時間半になることがあります。参加の地区役員は当番で、この人たちは強制に近い。また、皆さんは家庭があり小さい子供もいる。お年寄りを抱えている人もいます。夜の支度をして、その後片付けをしてとかで、やってくるわけですから、この人たちの負担も考えないといけない。途中で投げ出されないようにすることも執行部の責任だと思っています。

会長、副会長は本来、しっかり働くことを覚悟でなってらっしゃる。皆さんそれなりの名誉とうか、評価、会員の感謝も得ているわけですから、会長、副会長がでんとして、お前らがやれ、こん

な自治会は絶対活性化しませんし、会員は付いてきません。会長はよくやっている、副会長もよくやっていると、みんなが見て分かるように活動しないと自治会は動かない。これは大事なポイントではないかと思います。

それから、私たちは自治会広報紙として『多摩川の風』を月 1 回発行しています。最初白黒でしたが、現在は、全面カラー化しましたが年に 16 万円と経費がかかっています。自治会予算の中で占める金額は非常に大きい。白黒でもいいのに、何でカラー化するんだと反対が出ましたね。しかし、カラー化することでアピール力がぜんぜん違いました。

月例の役員会でどういうことが決まったかは、数日後発行の広報に載せます。また、私たちの広報は全員参加をうたっていますので、部からの連絡や報告、地域の各グループからの案内も掲載します。編集委員会が大変ですが、広報を全てコンピューターで作つて、その後印刷会社に送りますと、2 日後には出来上がります。広報費の 16 万円はすべて印刷代です。

役員会終了後、会議の内容を会長が書きます。各家庭への配布は大変ですが、地区役員が担当し、会員の団結にとってはいい武器になっています。

また、会員からの掲載要望を細かく拾うようにしています。例えば、地域内の街灯が今度新しくなった、これは何で新しくなったかという経過を記事に載せました。市に連絡したら、翌日替えてくれたのです。それを載せた広報紙を市に届けますと、市は喜びますよね。自治会から言つたら即、やらないかんとなってきます。会員みんなを巻き込んで広報を作ります。広報委員も募集します。誰かやりたい人はいない? そうしたら、私がやりたいと手を挙げる人が必ず出てきます。ひとつの自治会の広報紙が果たす役割は非常に大きいと思っています。

それから、年間のイベントとして夏祭りをやっていますが、スポンサーの協力体制も整ってきました。夏祭りは大変にぎやかで、孫をこの時期に呼ぶ家も増えてきています。

私の地域はみな他所から来た人で、地域にも根っこがないんです。隣の自治会は神社があつたり

して、まとまる要素があるわけですが、私たちは無いんです。夏祭りは、よさこい踊りもあれば、ハワイアンもある。自治会各部の屋台も出る。みんなが来てみんなでやるという内容です。あと年末年始のパトロールとか清掃とか、いろいろな行事は皆さんと同じようにやっております。



### ■行政、政治家等との間の取り方

行政との関係はどうしているのか。昭島市が自治会に対して非常に積極的にやってくれているようですね。これは非常にいいことです。自治会から各種の要望を市にしますので、行政の担当窓口とは非常にいい関係をつくっていくことが絶対大事です。

ただ、行政からの要望に対して全部やっていたら、大変です。ある程度取捨選択する必要があり、その都度判断してきました。その上で、行政とうまく連携し、地域の問題の解決で行政に一肌脱いでもらわないといけないこともあります。問題点を一般紙に書いてもらって、メディアというものをうまく利用することも試みてきました。

地域のことを行政に直接得手勝手に言う住民がいます。行政もすべて受け付けていたら、きりがないので、自治会がある程度要望をまとめれるような仕組みにしたら助かる、と思うはずです。

大事なことは、行政に要求するとき全部書面にすることです。電話だと、後で言った、言わないとということになりますが、書面で出すと回答が必ず来ます。正当な要求で、これはという用件は全部書面で出す。担当課を絞って、そこへ出すことは大事だと思います。そうすると、行政は誠実に答えてくれます。ただやみくもに勝手なことを言ったら市も困る。また市も自治会を使って、これを頼む、頼むという事もあるが、そこは間の取り方が大事です。今の地方自治体は基本的には、住

民のためによくやってくれると思います。

次に政治家との関係です。これは大事な点で、地域から市議会議員や都議会議員が出ることがあります。こういう人は自治会を利用しようと必ずします。

事例として昨年、府中市の連合自治会の前会長が都議員に立候補した。そうしたら連合自治会の広報に役員たちの推薦状がずらりと出た。連合自治会の名を利用して推薦するとは何事だと、私はその非常識さに憤慨しました。また、夏祭りの際も、議員が名刺を配ることもありますが、私たちは断るし、お祝いは一切受け付けません。この節度は自治会長がぴしっとしておかないといけないと思います。

組織が利用されないように、細心の注意を払いましょう。要は会長はそういうことにニュートラルでなければいけないと思います。いろいろな人が会員にいるんです。おとなしそうにしているけど、何かあって牙をむいたときは、うるさいと覚悟しておかないといけない。

次に、隣の自治会との付き合い方も大事です。隣の自治会とは、歴史も主義主張はちょっと違うんですけど、付き合いだけはちゃんとやっています。特に災害時は隣の自治会のお助けを借りなければいけないことがいっぱいあります。

### ■高齢化と住民エゴの問題点

どこの自治会も、高齢者の人たちに参加し協力してもらわないと運営できなくなってしまう、退職された人が自治会を動かしているところがかなりあります。いろんな社会経験をした人たちが地域にいます。そういう人たちをどう巻き込んでいくか、お願いしていくかということが非常に大事なポイントだと思います。要は、自治会員が、ここが終の棲家、一生住む棲家であるかという意識を持つかどうかです。地域全体として移動性の激しい地域で、みんな巻き込んだ自治会活動は、難しいですね。

終の棲家の意識の人が多くても、それと自治会活動がなかなか結び付かないということがある。また、経験と長年の養った知見をいかに地元に還元していただか、自治会活動にどう生かしても

らうかともポイントです。なかなか巻き込むことは難しく工夫がいります。

工夫の1つとして、会館をフルに利用して地域の人の出会いの場とするということです。仲間と知り合いになると、ずっと輪が広がる。あの人は面白い人で、次にあの人に何かちょっと頼もうかと、広がっていくんですね。

もう1つは、奥さんを通じて亭主を巻き込むことです。また、私たちは文化講座とか、講演会をシリーズで開催し、地域の人に講師を依頼して人を巻き込む努力をしてきました。それで会長、副会長は偏見を持たず、フランクに、地域活動がどうすれば活発化するかという大原則の下に、地域の人、特にうるさそうな人も巻き込む。それ皆、経験に自信を持っているんです。そういう人の自尊心をうまく引き出し、例えば講師を任せると、その人は翌日から少なくとも否定的じゃない、ある意味で協力的な人に、うまくいけば自治会活動の中心になってくれます。そういう人たちを私は何人も知っています。

だから、今、俳句を作るのが趣味だ、写真が趣味だ、絵を描く、尺八だ、何だいろいろなことをやる人がいっぱいいる。自治会がそれを巻き込んでいくことが作戦としていいんじゃないでしょうか。

しかし現実には、やっぱり「女高男低」と、女の人が活発です。男の人は定年になったら、それ以上ややこしいことは嫌やと、自治会なんて真っ平やと言う人がいっぱいいると思います。だから全員を巻き込むことは難しい。けれども、私はそういう中に戦力がいると思います。それが社会で実績を残した人ほど扱いにくいですよね。そういう人に協力を頼むというのはやっぱり会長、副会長の努力でしょう。

高齢化に伴い自治会としてどう取り組むかですが、私たちは高齢者のグループをつくって、援助し、会合にも支援して、講師も呼んで会合をやったり、お茶の会をしています。この間も高齢者の集まりで、若手落語会を実施し非常に喜んでもらっています。

自治会がとことん「お世話」をすると、それは「お節介」でしょうと言われる事もありますが、

この狭間ですね。これを心得ないと、何でもかんでもやって呼び掛けたらいいというものではありません。特にこのごろは非常に個人主義的になり、私どもは冠婚葬祭も重視してきましたが、葬儀に対しても、公表を避ける人も増えています。死んだときにはお世話になるから自治会を大事にしようなんて、そういう発想が通じるとは限りません。

私たちの地域にも独り暮らしの高齢者の方が三十数人います。見回りネットワークを作っていますが、それでも孤独死が出ます。しかし、あんまりお節介をすると本人も、家族も嫌がる。その間合いの取り方というのが難しいです。だから、無理のない形でみんなが温かく見守る。何かあったときのためにも、家族との接触もそれなりに保っておく。これらは皆さんも、お悩みであろうと思います。

私たち自治会は、そういう独り暮らしの人が自治会活動にも参加できるように、送り迎えを補助するなどの、きめ細かな配慮を実施してきました。家族によって、やり過ぎると敬遠されます。要は温かいコミュニティーをつくるということが基本です。わしは知らんという人をなるべく減らす。そして、『ここは終の棲家じゃないか。皆さんはここで一生終わるんでしょう。なら、温かい人間関係にしましょうよ』と、これが私たちの自治会のキャッチフレーズですね。なかなかそんなことを言っても、お前、そんなにうまくいっていないんじゃないとかと言われるかもしれません、100%近い加入率を維持できる秘訣はこういうことです。

以上で本日の話とさせていただきます。拝聴ありがとうございました。(拍手)



※この講演内容は、紙面の都合で講演者に了解をいただき、要約させていただいております。